

[報告] 第 30 回歴史地震研究会巡検参加報告

名古屋大学大学院環境学研究科地震火山研究センター* 山中 佳子

A Report of Field Trip during the 30th Annual Meeting of the Society of Historical Earthquake Studies

Yoshiko YAMANAKA

Earthquake and Volcano Research Center, Graduate School of Environmental Studies, Nagoya University
D2-2(510) Furo-cho, Chikusa-ku, Nagoya 464-8601, Japan

§ 1. はじめに

2013 年 9 月 14 日(土)から 16 日(月)の 3 日間にわたって、秋田市にある秋田大学手形キャンパスで第 30 回歴史地震研究会大会が開催された。研究発表会のほか 15 日午後には秋田大学地域創成センターとの共催で公開シンポジウムが開催された。また 16 日には 1704 年岩館地震による崩壊によってできたとされる十二湖などを巡る現地見学会が計画されていたが、大型台風 18 号の大雨により残念ながら途中で中止となってしまった。本稿では半分幻となってしまった巡検について報告する。

§ 2. 東北地方北部日本海側の歴史地震

戴いた資料によると、近世以降に東北地方北部日本海側に発生した地震には以下のようなものがある。

- 1694 年元禄能代地震(M6.9),
- 1704 年宝永羽後地震(M7.0), [岩館地震]
- 1766 年明和津軽地震(M7.0-7.2),
- 1780 年安永酒田地震(M6.3),
- 1793 年寛政西津軽地震(M6.9-7.1),
- 1804 年文化象潟地震(M7.0),
- 1810 年文化男鹿地震(M6.5),
- 1833 年庄内沖地震(M7.7),
- 1848 年弘化津軽地震(M6.0)
- 1939 年昭和男鹿地震(M6.8)
- 1964 年昭和男鹿半島沖地震(M6.9)
- 1981 年日本海中部地震(M7.7)

頭に○を付けた地震はプレート境界型の地震と思われる地震である。これらを別にして考えると 100 年間に 3 回程度内陸被害地震が起きているようで、前回の地震からすでに 48 年経過している。

このうち今回の見学に関連するのは 1704 年岩館地震で、能代では 1193 戸のうち倒壊 435 戸、焼失 758 戸、死者 58 名というこの地震で最大の被害を出した。この地震により十二湖崩れが発生し、崩山西側の尾根状の斜面が崩壊した(今村, 1935, 古谷・他, 1987)。現在日本キャニオンと呼ばれ十二湖第 2 の景

勝地となっているそうだ。またこの地震で地滑り性崩壊地に湖沼群を形成された。これが現在観光地になっている津軽十二湖だそうだ。私も以前観光でこの地を訪れたが、地震によってできたことは今回の巡検資料で初めて知った。

§ 3. 巡検内容

16 日 8 時に愛知県に上陸し日本を縦断しながら仙台を通るコースを通ったため、朝から秋田市内も雨、それでも参加者 37 名は元気にバスに乗り込んだ。

まずは 1983 年 5 月 26 日に発生した日本海中部地震の被災地の 1 つ、八峰町(地震発生当時は八森町、峰浜村)の見学を行った。この地震では 104 名の方が犠牲になっているがその多くは津波によるものであった。我々は、当時小学校で教鞭をとっていられ、当時から八森にお住まいの工藤英美氏(現在八峰白神ジオパーク協議会会長)から津波がどのようにやってきたか、また津波被害に関わるエピソードなどを伺った。現場で当時撮影された写真を見ながらのお話だったので、そのときの様子が目に浮かぶようだった。雨が強くなって傘に跳ね返る音が大きくなり所々お話が聞きにくかったのがちょっと残念であった。



写真 1 雨の強まる中、日本海中部地震の津波の様子を説明される工藤英美氏

* 〒464-8601 愛知県名古屋市千種区不老町 D2-2(510)
電子メール: sanchu@seis.nagoya-u.ac.jp

その後、バスは北上。途中で当時被害にあった地域の説明を受けながら見学、さらに八峰町にある日本海中部地震祈念碑や瀧安の乙女像を見学するも雨脚が強く落ちて見学ができない状況になり、昼食場所である岩館ハタハタ館へ移動、そこで工藤さんが持ってこられた日本海中部地震時に取られた津波が迫ってくる写真などを見せていただいた。

昼食後、この雨では地滑り地形は無理となり二ツ井地震に関連する場所へ移動しようとしたが、秋田自動車道は通行止め、一般道を走るも30分ほど走ったところで突然、バスの前に木が倒れてきた。小さな土砂崩れが起き、木で道はふさがれた。この段階で今回の巡検は中止となり秋田に戻ることになった。秋田空港による飛行機も欠航が相次ぎ、多くの人が秋田に戻ることに。秋田新幹線も運休になり、急遽その日の宿の確保と翌日の帰路の確保に皆走ることとなった。



写真2 バスの前をふさいだ土砂崩れの瞬間
(林信太郎氏撮影)

§4. おわりに

なかなか行く機会がないこのような場所を見学できることを楽しみにしていたが、我々の思いを尻目に巡検当日の朝に愛知県豊橋市付近に上陸、山梨県、福島県を通過するコースを通ったため、秋田県でもどんどん風雨が強まり結局途中中止となったが、出発の段階から関係者の方々の心配は並大抵ではなかっただろうと察する。今回見学できなかったところがあったことはとても残念だが、我々にとって今回の巡検ほど印象に残ったことはないだろう。様々な災害を起こす自然の大きな力を感じた巡検となった。今回見学できなかった十二湖についてはまたの機会に是非訪れてみたいと思う。

謝辞

今回はやむなく途中中止になってしまいとても残念だが、関係者の皆さまがこれまで時間をかけてどんなところを見せたらいいだろう、参加者に楽しく学習していただくにはどうしたらいいだろう？という下準備をされてきたことを思うと、我々以上にごっかりされているのではないかと思う。企画、案内役を引き受けられた林信太郎教授をはじめ関係者の皆さま、秋田大の学生の皆さまに対し心から感謝申し上げます。

文献

- 古谷尊彦・町田洋・中村三郎,1987, 津軽十二湖を形成した大崩壊, 昭和 61 年度文部科学省自然災害特別研究(1)「崩壊の規模, 様式, 発生頻度とそれに関わる山体地下水の動態」, 183-188.
今村明恒, 1935, 西津軽十二湖の成因, 地質学雑誌, 42, 820-821.

第30回歴史地震研究会懇親会

